

福井県立美術館

友の会

福井県立美術館友の会では、6月11日(水)に恒例の春の見学会をおこないました。89名の方が参加され、アサヒビール大山崎山荘美術館の「アンティーク西洋麦酒盃展」、宇治の平等院、京都国立近代美術館の「韓国国立中央博物館所蔵日本近代美術展」を鑑賞しました。

春の見学会

M.M



アサヒビール大山崎山荘美術館

楽しみにしていた見学会。今年はちょっと欲張りなコースでした。庭園の中の美術館、アサヒビール大山崎山荘美術館。あのアンティークな麦酒盃(ピアマグ)でビールを飲んでみたい…。そんな思いを描き宇治の平等院へ向いました。平等院では近年新築なった鳳翔館ミュージアムも見学出来ました。そして最後が京都国立近代美術館の「日本近代美術展」の見学。

韓国国立中央博物館所蔵で朝鮮王室の名品…。どんな作品が日本から出て行ったのだろうととても楽しみでした。中でも鶴木清方の「鯨」は、少年と若い婦人の身なりや台所の様子等が江戸時代の生活のさまをよく表現していて興味深く、二人の会話がかえりかえりしていました。川端玉章の「郭子儀」は、古代中国の富貴豪華を極めた幸福と長寿の象徴らしく大人(たいじん)の風格ある人物像がとても心に残りました。名宰相とはこんな感じなのかな…と想像をたくましくしました。

貸館情報

10/03 ~ 10/13	第56回県総合美術展	11/05 ~ 11/09	第20回イーゼル会デッサン展	11/19 ~ 11/24	第17回美浜美術展
10/17 ~ 10/19	第30回記念 - 書会展		県美展写真部門無鑑会写真展		第6回フォトグループ・アイ
	愛石展		第30回悟仙社墨彩展		12人写真展
	キャノンクラブ福井支部		第5回絵画グループ「樹」作品展	11/21 ~ 11/24	第17回白梅会洋画展
	第3回写真展	11/06 ~ 11/09	アトリエ羊庵展	11/26 ~ 11/30	第40回福井県工芸作家協会展
10/22 ~ 10/26	福井県写真家協会第10回記念展	11/12 ~ 11/16	千葉半座・神戸正行	11/27 ~ 11/30	第53回福井県勤労者美術展
	山本穂一日本画展		書と絵2人の個性	12/04 ~ 12/07	第35回福井県教職員美術展
10/24 ~ 10/26	第22回源泉書道展		小林香代子 創作木目込人形展		新彫会彫刻展
10/30 ~ 11/03	北陸三県表装展	11/13 ~ 11/16	第39回福井造形展	12/13 ~ 12/17	第53回福井書法展

広報板

日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740 1 TEL:077 543 2111

フランスコミック・アート展
9月6日(土)~10月13日(月)

日本アメリカに次ぐコミック大国フランス。「第9番目の芸術」と称される、未だ知られざるフランスコミックの全貌を紹介する。鳥山明や大友克洋にも影響を与えたメヴィウス等、約15作家。

一般:900円(700円)/高大生:650円(500円)/小中生:450円(350円)
括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

春拳と蘆花浅水荘展

10月18日(土)~11月16日(日)

大津市出身の京都画壇の重鎮、山元春拳が大正中期に琵琶湖畔に建てた別荘「蘆花浅水荘(重要文化財)」様々な資料を通して、春拳芸術と蘆花浅水荘の関わりを検証する。

一般:800円(600円)/高大生:600円(400円)/小中生:400円(300円)
括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金



山元春拳 武蔵院殿

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4 1 22 TEL:058 271 1313

日本のわざと美展 -重要無形文化財とそれを支える人々-

9月23日(火・祝)~10月19日(日)

毎年文化庁の企画・主催で巡回展として実施。現代に生きる日本の「わざ」を、その技法を支える人々と作品に焦点を当てて紹介する。

大学生以上:800円(700円) 高大生:600円(500円) 小中生:400円(300円)
括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

参加してエンジョイ

岐阜県美術館 所蔵品特別展 -

10月28日(火)~12月14日(日)

この展覧会は、現代美術のアクティブな可能性に注目しつつ、より広い範囲で、教育普及的な催し物を様々な加味し、現代美術に楽しく接する機会をもたらそうとするもの。

一般:600円(500円)/高大生:400円(300円)/小中生:200円(100円)
括弧内は20名以上の団体料金

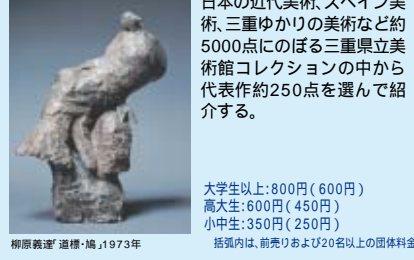
三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059 227 2100

三重県立美術館は、現在休館中ですが、2003年11月1日(土)にリニューアルオープンの予定です。

再開! 三重県立美術館のコレクション

11月1日(土)~12月14日(日)



柳原義隆「道標・鳩」、1973年

日本の近代美術、スペイン美術、三重ゆかりの美術など約5000点にのぼる三重県立美術館コレクションの中から代表作約250点を選んで紹介する。

大学生以上:800円(600円) 高大生:600円(450円) 小中生:350円(250円)
括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金



し の ちゃわん うのはながき 国宝「志野茶碗 銘 卯花」桃山時代 (「三井文庫名品展 書画と茶陶の美」より)

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.101

contents

- ❖「三井文庫名品展 書画と茶陶の美」 [2~5]
- ❖所蔵品によるテーマ展「日本の古画」岡倉天心と近代日本画 [6]
- ❖移動美術館 敦賀展 [7]
- ❖イベント報告「アフリカのストリートアート」展 [7]
- ❖お知らせ [7]
- ❖福井県立美術館友の会 [8]
- ❖貸館情報 [8]
- ❖広報板 日本まんなか共和国 [8]

三井文庫名品展 書画と茶陶の美

平成15年10月24日(金)~11月24日(月)

主催 福井県立美術館・福井新聞社・財団法人三井文庫
 共催 福井県茶道連盟和光会
 後援 福井市・福井県文化協議会・NHK福井放送局・FBC福井放送・福井テレビ・FM福井
 協力 三友会(株)北陸オフィスシステム(旧株 福井ココヨ)

講演会

午後2時から 当館講堂にて 《聴講無料》
 11月 3日(祝)「光悦と寛永の茶の湯」 熊倉功夫氏(国立民族学博物館教授)
 11月16日(日)「三井家伝世の茶道具」 清水 実氏(三井文庫主任学芸員)

茶席

10月25日(土)、26日(日) 午前10時~午後3時 当館講堂にて 《有料》

開館時間 / 午前9時~午後5時(金曜日は午後8時まで) いずれも入館は閉館30分前まで
 休館日 / 10月27日(月)、11月10日(月)、17日(月)
 観覧料 / 一般 1,000円(前売り 800円)、大・高生 500円、中・小生 300円
 (30名以上の団体は2割引)

当館では今秋10月24日(金)~11月24日(月)まで、特別展「三井文庫名品展 書画と茶陶の美」を開催いたします。

東京中野区にある財団法人三井文庫は、江戸時代の豪商で近代には日本最大の財閥として、日本の経済発展に大きく寄与してきた三井家の家史編纂を目的として、今から100年前の明治36年(1903)に設立された三井家編纂室を前身としています。大正7年(1918)に三井文庫と改称し、戦後財団法人として三井家および三井グループ関係資料を中心とする企業資料の専門図書館、および社会経済史の研究所となりました。また昭和59年(1974)には、三井家から伝来の美術品と切手類の寄贈を受け、翌60年(1975)に「別館」を開館、別館は美術館として収蔵作品の保管・研究や展覧会など、活発な活動を行っています。



重文
 「大名物 唐物肩衝茶入 北野肩衝」
 南宋時代
 若狭酒井家伝来



「古伊賀耳付花入 銘 葉平」
 桃山時代



重文
 「中興名物 玳皮盞(鷹天目)」
 南宋時代



「古三島茶碗 二徳三島」
 朝鮮王朝時代
 若狭酒井家伝来



重文
 「黒楽茶碗 銘 雨雲」
 本阿弥光悦作
 江戸時代



「赤絵團龍文四方水指」
 明時代

三井家の歴史

三井家の歴史は初代三井高利(1622~1694)から始まります。高利は伊勢松坂の出身で、先祖は近江の守護六角佐々木氏の家臣であったといわれます。父の代に松坂で酒や味噌の商売を始め、「越後殿の酒屋(越後屋)」と呼ばれて繁盛しました。高利14歳の時、江戸にある兄の店で働いて抜群の商才をみせ、52歳には江戸と京都に呉服店を持つまでになりました。薄利多売・店先売りの「現金掛値なし」という、他店とは異なる新商法で評判をよび、その後両替店も経営。さらには幕府御用達にもなるなど、名実ともに日本一の豪商に成長しました。高利没後は長男の北三井家を総領とする6本家と5連家のあわせて11家が、財産共有による同族経営体制をとり、江戸時代を通じて安定した地位を保ちました。そして明治維新を迎えると、三井家は一転して明治新政府の金融御用を勤め、また三井銀行や三井物産会社を設立。政府との関係をさらに深めつつ、近代化の時流を巧みに掴んで日本最大の財閥を形成するに到ったのです。

近世・近代と日本の経済に重要な位置を占めた三井家ですが、その一方で文化面に果たした役割も大きいものがあります。歴代の当主は事業の経営に携わるかたわら芸術文化にも造詣が深く、その優れた美意識により数多くの美術品を収集する一方、江戸時代の絵師円山応挙に代表されるように、才能ある人物を援助するなど、文化のパトロネージとしての功績も見逃すことはできません。その意味で三井文庫のコレクションは、三井家が芸術文化の保存と育成にいかにか深く関わったかを端的に示す資料として大変価値あるものといえます。

本展のみどころ

三井文庫に収蔵される美術品は、日本および東洋の古美術を中心とする約3700点。内容も絵画・書跡・拓本・茶道具・能面・刀剣など多岐に渡り、国宝6点、重要文化財19点、重要美術品45点を含むほか、指定品以外にも知る人ぞ知る名品が数多く揃っています。その質の高さは個人コレクションとしては日本屈指で、内外に広くその存在を知られています。また若狭武田氏の後裔とされる室町時代の茶人武野紹鷗や、越前朝倉氏出身で千利休参禅の師でもある禅僧古溪宗陳、そして小浜藩主酒井家や福井藩主松平家の伝来品など、福井県ともゆかりの深い作品が数多く含まれているのも特徴の一つでしょう。

本展は三井文庫のコレクション展としては日本海側初の開催となるもので、豊富なコレクションの中から、特に名品揃いの絵画・書・茶の湯に使用される焼き物(茶陶)に分野をしばり、福井ゆかりの作品をはじめ、国宝2点と、重要文化財5点、重要美術品1点を含む88点を厳選して一堂に展示します。

絵画では江戸中期の絵師円山応挙生涯の傑作として知られ、三井文庫の「顔」としても名高い国宝「雪松図屏風」。日本の水墨画に大きな影響を与えた中国南宋時代の画家梁楷や牧谿の作品。豊臣秀吉の聚楽第の光景を描いた「聚楽第図屏風」など、教科書や美術書でお馴染みの作品が並びます。

一方、書分野では平安時代のかなの名筆である「高野切」や、「継色紙」「寸松庵色紙」「升色紙」のいわゆる三色紙、鎌倉時代の歌人藤原定家の「小倉色紙」など愛好者垂涎の作品が勢揃いします。ほかにも



国宝「雪松図屏風」 円山応挙筆 江戸時代



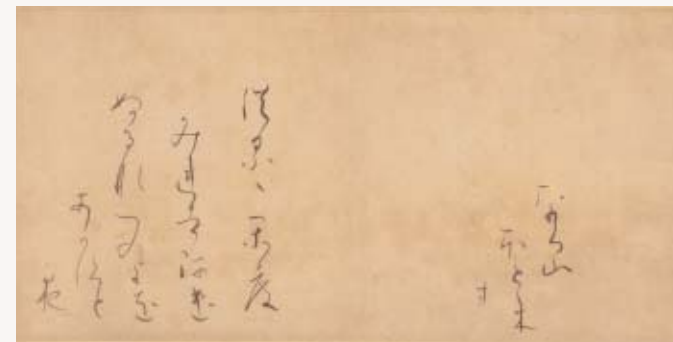
「聚楽第図屏風」 桃山時代



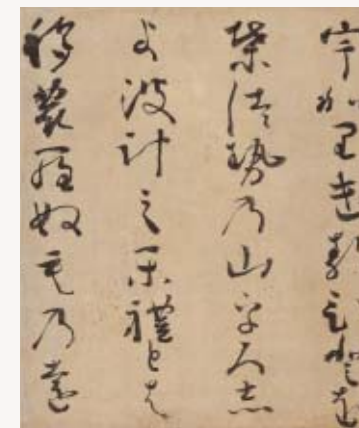
「六祖破経図」 梁楷筆 南宋時代



「虎関師錬墨跡(花屋号)」 虎関師錬筆 鎌倉-南北朝時代



「継色紙」 伝 小野道風筆 平安時代



小倉色紙
「うかりける…」
藤原定家筆
鎌倉時代



「古溪宗陳墨跡」
古溪宗陳筆
桃山時代

古林清茂や一山一寧、虎関師錬ら中国・日本の禅僧の墨跡、武野紹鷗、千利休、古田織部ら茶人の消息など、何れも見応えのあるものばかりです。

茶陶の分野では花入・茶入・茶碗・香合・水指・建水・懐石道具を展示します。花入では越前松平家伝来の青磁花入や「古伊賀耳付花入 銘業平」、茶入では若狭酒井家伝来「大名物 北野肩衝」や「中興名物 佐久間面取」などがよく知られています。

また茶碗では重文「鸞天目」等の唐物、「升屋井戸」や若狭酒井家伝来の「二徳三島」の高麗物、そして日本で焼かれた国宝の茶碗2点のうちの一つで、三井文庫のもう一つの顔である「志野茶碗 銘卯花壇」を筆頭に、長次郎や道入など楽家の作品、寛永期を代表する芸術家本阿弥光悦の「黒楽茶碗 銘雨雲」といった和物茶碗など、三井文庫の名碗が揃うのも本展の大きな魅力といえます。その他の作品も色・形・技法にそれぞれ趣向が凝らされ、産地も中国・朝鮮・日本・東南アジアなど様々で、何れも飽きのこない品ばかりです。

さらに昭和3年(1928)に東京の三井本邸で行われた、織田有楽ゆかりの茶室如庵の席披きの折りの茶道具を、実際に茶室の中に取り合わせての展示もご覧いただけます。

このように三井文庫を代表する名品の数々が、これだけの規模で一挙公開されることは三井文庫以外においては例が無く、その意味で本展覧会は同館の名品を福井にいながらにして一挙に鑑賞できるまたとない機会といえます。この貴重な機会を是非ともお見逃しなく、300年に渡って三井家歴代の人々の確かな美意識により選ばれ、慈しまれてきた美の粹に触れていただければと思います。

(学芸員 戸田浩之)

第4回 「日本の古画 - 鎌倉から江戸 - 」

会期:平成15年11月29日(土)~平成16年1月12日(月)

浄土信仰の流行により平安から鎌倉にかけて数多く制作された来迎図の様式で元京都・大雲院に伝来した「二十五菩薩来迎図」(14世紀)や、花鳥図を得意とした若狭ゆかりの画人とされる芸愛の「鷹図」(16世紀)、福井ゆかりの画人で江戸初期に独自の画風で岩佐派を興した岩佐又兵衛の「和漢故事説話図」(17世紀)、又兵衛の嫡男で福井藩の御用絵師・岩佐勝重が描いた元福井城本丸御殿鶴の間の襖絵であった「群鶴図屏風」(寛文11年/1671)、江戸時代を代表する浮世絵師・葛飾北斎の肉筆画「仙人掌春秋山水図」(文化7~10年頃/1810~13頃)など館蔵の鎌倉から江戸時代にかけての日本画をご紹介します。



芸愛「鷹図」



岩佐勝重「群鶴図屏風」



第5回 「岡倉天心と近代日本画」

会期:平成16年1月17日(土)~2月22日(日)

福井藩士を父として幕末の横浜に生まれた岡倉天心は、東京美術学校校長、帝国博物館美術部長などの要職を歴任し明治期の美術教育・美術行政の基礎作りに携わりました。また在野の美術団体「日本美術院」を創設し、明治期の新しい日本画創造運動の指導者として、近代日本画発展に大きく貢献しました。

本館では福井ゆかりの天心関係の作家・作品を作品収集の第一方針に掲げ、初期院展作家の作品を中心として近代日本画の収集を行ってきました。本展ではこの近代日本画コレクションの中から、狩野芳崖「伏龍羅漢図」、菱田春草「落葉」、横山大観「海月あかり」、下村観山「寿星」など天心周辺の作家の作品を展示し、天心が進めた美術運動の成果をご紹介します。



狩野芳崖「伏龍羅漢図」



下村観山「寿星」



新収蔵作品と岡島コレクション



「月下秋草図裏座金具」(岡島コレクション)

福井県立美術館では当館のコレクションを地域の方々にも身近なものとして鑑賞していただくことができるよう、各市町村の協力を得て移動美術館を開催しています。

本年の敦賀展では平成14年度に新しく収蔵した作品と、大野市出身でニューヨークで美術商として活躍した岡島辰五郎氏から寄贈された岡島コレクションを紹介いたします。岡島コレクションは嶺南地方では初めての公開になります。この機会にぜひ本展に足をお運び下さいますようお願いいたします。

会期:平成15年9/27(土)~10/8(水)
休館日:9/29(月)・10/6(月)
会場:敦賀市立博物館
敦賀市相生町7-8
tel.0770 25 7033
開場:午前10時~午後5時
(入場は午後4時30分まで)
観覧料:一般・大学生100円
(団体30名以上は2割引)
高校生以下・70歳以上・
身体障害者の方は無料

ご来場の際は、公共交通機関をご利用くださるようお願いいたします。

イベント
報告

会期:平成15年7月4日(金)~8月3日(日)

アフリカのストリートアート展

7月4日(金)から8月3日(日)まで当館で開催された「アフリカのストリートアート」展は、現代アフリカ文化という観点から最も刺激的な場所である西アフリカの国々(主にコートジボワールとガーナ)の、ストリートで見られるデザインや雑貨に焦点を当てた展覧会でした。この展覧会は、一部を除いて展示品にさわってもいいし、写真を撮ってもいいというちょっと変わった体験型の展覧会で、特に若い人たちに好評を得ました。

期間中いくつかのイベントを行いました。その中で特筆したいのが、アフリカ打楽器の第一人者として世界的に知られるカクラバ・ロビの演奏会でした。彼がほとんどボランティアで本展覧会のためにガーナから駆けつけて、無料コンサートを開いてくれるという奇跡のような出来事で、この展覧会は幕が開いたのでした。コンサ

ートは当館ロビーで5日の午後2時から約80分ほど行われましたが、観客の中にはこのコンサートのことを聞きつけて大阪や東京からわざわざ聴きにいられた方もおられました。今回は音響装置なしの生で演奏してもらいましたが、これが成功したと思います。彼の手作りのコギリという打楽器が出す音は、言葉での表現をこえたもので、聴衆を陶酔させていました。(このコギリという楽器は伝統的な打楽器で、2年ほどかけて乾燥させた木を鍵盤に使い、鍵盤の下にひょうたんをぶら下げて共鳴管にしていますが、このひょうたんにはそれぞれ3つの穴があけてあり、そこに土蜘蛛の卵の薄皮を貼り付けてあり、これによって彼のコギリは聴いたことのない独特の音を出します。)

もう一つ好評だったイベントが「アフリカンヘアスタイル体験」で、7月



演奏中のカクラバ・ロビ

13日(日)と27日(日)の二日間、大津市在住のコートジボワール人女性ジュリー・レイモンドさんに来館してもらって、会場に展示してある理髪店のキャビンの前で、エクステンションを希望の来館者にしてもらいました。エクステンションとはつけ毛のことで、ジュリーさんは見事な手さばきで人工毛を地毛に編み込んでいました。

更に、展示品のガーナのアート棺桶に実際に入ってみるとか、バックドロップ(ガーナの写真館の撮影背景)の前で写真を撮るとか、民族衣装とアフリカンヘアーのカツラをつけて写真を撮るなどの体験も好評でした。

お知らせ

<美術館職員の異動について>

当館では、6月に定期人事異動があり2年間在任した近藤外意副館長と土田栄作利用サービス室長が異動し、後任に佐々木緑副館長と浅岡威佐雄利用サービス室長が着任しました。また3年間在任した中弘江主任が3月末に退職し、後任に佐々木徳子主任が着任しました。